

同窓生 シリーズ

70



30回生
平井聡治
ひらい そうじ

◆プロフィール
関西学院大学商学部卒業。
昭和58年大和ハウス工業(株)本店入社。
平成17年より大阪中央支店に就き、現在に至る。

昭和53年に新宿高校を卒業し、来春までに50才の舞台に乗るのが30回生です。この年代は昨年11月に卒業30年同窓会が盛大に開催され、当時の担任の先生方とも30年振りに再会。楽しいひと時を過ごして、現在のそれぞれ社会的立場と当時の姿とを重ね合わせて、感心した人達も多かったのではないのでしょうか。在学中は山口百恵やピンクレディー、アリスの全盛期。ロックキード事件や王貞治のホームラン世界記録達成に沸いたのも2年生の時でした。そんな中で特に取り柄も無かった私が新宿高校水泳部に入学した時から、人生が動き出した気がします。一日に12km以上泳ぐ強化練習。皆が今まで経験した事のない苦しさや悲愴感も、同僚や先輩、後輩達と一緒に分か

ち合い、それを乗り越えた達成感や新記録が出た喜びを共有する事で、より強い一体感が生まれました。現在、会社で支店の社員130人余りを預かる者として、厳しさや愛情のどちらが欠けても人は育たない現実の中にあつて、この時の経験が大変役に立っております。そして私にとつてもう一つ大きなイベントであつた合唱コンクール。一生懸命に打ち込むばかりでなく、中には不真面目な人もあり、照れが声が出ない人もありで、嫌々指揮者をやらされた感の私でしたが、練習を重ねるに連れて、私の指揮棒をパツと見てハーマニーを奏でる楽しさにすっかりハマリ、個性の集まりも素晴らしいなと実感したのも高校時代でした。会社でも、「同じ塔を目指せば、バラ

バラの人間も結束できる」の実例として時々中間管理職との話の引合いに出したりします。
卒業してから浪人生活を東京で半年、京都で半年経験して関西の大学に入学して以降、ずっと関西ですが、訪問先で出身高校の話になると「東京新宿高校です」と胸を張って言っています。今年5月に発刊された「朝陽」の58号の中で、篠田校長が、民間の塾の間でも私立都立を問わず、本校が「最も入学させたい学校」と言われているという何とも嬉しい一文がありました。そして生徒は「全員指導者たれ」の精神で行つてほしいと。私は卒業生達が社会の中で皆を引っ張つていく為には、人間力をつけた上で学力をつけてほしいと願います。母校新宿高校の古いと思われる伝統を守りながら、新しい挑戦をすると言う「責めと守り」の考えを、生徒の皆さんが身につけて育つていられる事を切に祈つて止みません。